

大阪医科大学学報

第29号 平成8年7月



中央資料館 - 夏 -

◆目

討 報	2
規程の改正	4
人事 { 法人、名誉教授称号授与、採用 }	4~6
{ 退職、昇任、委嘱・解嘱、海外渡航 }	
新任教授・紹介	6
永年勤続表彰	7
平成7年度主なる事業報告	8
平成7年度・収支決算	9

次◆

平成8年度科学研究費補助金交付決定	11
教室紹介	13
医学の散歩道	14
海外出張記	15
医学会春期学術講演会	16
会議・行事予定	16
学内行事	17
附属病院関係	18
俳 句	19

訃報 細川修治元学長ご逝去



本学元学長で名誉教授の細川修治先生が、去る6月1日（土）午前1時57分本学附属病院において逝去されました。

ここに慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

なお、8月11日（日）午後1時から高槻現代劇場中ホールにおいて、『故細川修治先生を偲ぶ会』を本法人他5団体の主催で開催する予定でありますのでご案内致します。

また、藤本守学長および中田勝次名誉教授から、生前の細川修治先生を偲ぶ「追悼文」が次のとおり寄せられました。

細川修治先生の死を悼む

学長 藤本 守

私の最も尊敬する細川修治先生が、本学の第69回目の創立記念日である1996年6月1日午前1時57分に、87歳の天寿を全うされた。寿命とはいえ、多くの人々から敬愛され、かつ戦後我が大学の改造に大きな足跡を残された偉大な先駆者を失ったことは残念至極である。本年5月マウイ島の旅行を楽しまれ、後、検査入院中に病室での先生をお見舞できたことが、私にとってせめてもの慰めであった。

細川先生は、昭和40年代初期に全国的な猖獗を極めて大学紛争で本学を退陣された松本信一初代学長の後を受けて、新学長選挙規程で選ばれた二代目の学長である。昭和46年から52年までの二期・6年間に互って、困難な学園の再建に尽くされた。すなわち、大学の中・長期のマスター・プランを確立、欠員教授の充足、講義実習棟など研究・教育設備の建設と充足、さらには、大学創立五十周年事業の完遂にも甚大な貢献をされた。昭和56年、本学名誉教授を授与されている。

細川先生は、明治41年（1908年）9月16日秋田県横手市にて、銀行家のご子息として誕生され、昭和8年本学の前身である大阪高等医学専門学校を卒業（二期生）の後、当初外科学を専攻され、昭和9年より江口季雄教授の病理学教室に入室され、副手・助手を歴任された。当時二、三年間大阪市福島で夜間開業（外科・泌尿器科）をされている。昭和13年教育応召を受け、その後、軍医

少尉として数年間、中国広東市の陸軍病院の病理研究室で勤務された。出征先で偶然にも田中忠彌現理事長（五期生）と遭遇されたという。昭和17年復員後、母校講師となり、昭和19年に再応召を受け（軍医大尉）、終戦を迎えられた。昭和21年本学病理学教室に復帰、昭和23年医学博士、同23年助教授となられた。昭和28年山口県立医大病理学教授に就任、学生部長、図書館長等を歴任された。本学学長に就任された頃には日本病理学会理事を務められていた。

研究・教育面を眺めると、細川先生の研究は、当初寄生虫学の研究である。愛弟子の宮里昂教授（近畿大学医学部・寄生虫学）らを育てられた。脈管内合成樹脂注入による微小循環の研究も行われたが、これは細川先生が助教授時代に助手を務められた中田勝次名誉教授（本学第一病理学）の専門「肝門脈循環の研究」に発展している。

山口に移られてからは「アミロイド症の発生病理」を研究され、後任の内野文彌教授をはじめ、本学卒業生山下貢司教授（川崎医大副学長、人体病理学）らを育てられた。細川先生は本学に着任後に、学長を務める傍ら、病理学の濱本祐二・中田勝次両教授と共に、第64回日本病理学会総会の会長を引き受け、学会のために大いに貢献された。

学長退任後も、修仁会病院（現・新生病院）院長、藍野学院医療技術短期大学長をされ、平成3年からは同大学名誉学長に就任された。また、今日に至るまで、吹田市国際交流協会理事長、大阪予防医学協会理事長、高槻

高等学校理事などを務められてきた。

先生は「鈍・運・根」（早石先生の言による）を地で行った方で、面倒見のよい大型、温厚篤実の紳士であった。晩年にはキリスト教（バプテスト派）に入信された。その教義に基づき、先生の国籍は既に「天」にあられる。慎んで冥福をお祈り申し上げます。

なお、本年8月11日に先生のありし日を偲び、追悼の会が催される。

故細川修治元学長を偲ぶ

名誉教授 中 田 勝 次

細川修治先生は平成8年6月1日午前1時57分、本学附属病院において御家族の見守るなか安らかに神のもとに帰られました。87才でありました。先生は明治41年9月16日秋田県横手市に生まれ、昭和8年3月大阪高等医学専門学校を卒業（第2回卒業）、江口季雄先生の主宰する病理学教室に入り、助手、講師、助教授を勤め、この間2度都合5年陸軍々医として奉公された。昭和28年恩師江口先生の後任として山口県立医科大学（後に国立に移管）教授となり、19年間病理学の教育、研究に従事され、学生部長、図書館長の要職を勤め、多数の門下生を指導育成された。この間の研究は第61回日本病理学会における宿題報告「アミロイド症の病理」として結実し、また病理学会理事として同学会の発展に貢献された。昭和46年6月本学第2代学長に就任、広瀬理事長との深い信頼と緊密な協調のもとに学園紛争の収拾にあたり、紛争によって停止していた教授人事を再開し、10余名の欠員教授を充足し、基礎講義実習棟の建設など教育体制の整備、研究の発展充実に尽力され、大学の発展に極めて大きく貢献された。その間昭和50年4月、先生は高槻市において第64回日本病理学会総会を開催し、本学の声価をたかめ、会員諸氏から同窓会を含め全学的に学会出席者をお迎えするという私学ならではの温い気持ちのこもった立派な学会であったとの賞讃を受けられた。昭和52年先生は任期満了により学長を辞められたが、その後、病理学会名誉会員に推され、昭和60年請われて学校法人藍野学院の理事、学長兼教授に就任されて同学院の創設発展に尽力され、また学校法人高槻高等学校の評議員、理事として同校の運営にあたられた。その他、山口県癌対策協議会委員、吹田市教育委員会委員および委員長、財団法人大阪予防医学協会理事および理事長、吹田市国際交流協会理事長、吹田市美術連盟会長など数々の社会活動に従事された。

細川先生は頑丈な身体と強靱な精神を持たれ、人柄は重厚、粘り強く、弱音や泣き言を言われず、また、他人の悪口を一切言われなかった。これは先生の特筆すべき美徳の1つと言えよう。先生は面倒見の良いお方で、弟子を別け隔てなく遇したので先生を慕い寄る者が多かつ

た。先生はまた人を育て世に送り出すことに力を尽され、門弟に内野文彌（山口大学名誉教授）、宮里昂（近畿大学医学部教授）、山下貢司（川崎医科大学副学長）、岩田隆子（山口大学医療短大教授）らが育った。不肖私も門弟の末席を汚がす1人である。また、先生の周りには種々の分野に渉る多くの友人知己が集い、これらの方々の厚い友情が先生を支えた。これも先生の人徳の然らしめたところであろう。先生は平成3年洗礼を受け、キリスト教に帰依された。入信に至る心境については遂にお聞きする機会はなかった。この数年さしも強健な先生にも衰えが見えはじめ、前立腺癌、肺梗塞と次々に病の侵すところとなったが、その都度奇跡的に回復され、平成7年11月5日ロイヤルホテルで開いた先生の米寿を祝う会では元気なお姿を我々に見せて呉れたのであるが、奇跡は2度とは起らなかった。亡くなる2週間前病室にお見舞い上がったときしばらくお話しすることができた。そのときの先生の話はすべて本学の行く末についてであった。

我々は偉大な先輩を失った。悲しい。願わくば、神とともに安らかに在られんことを。

名誉教授称号授与規程および客員教授規程の一部改正について

「客員教授規程」第6条の称号授与の規定の部分を、「名誉教授称号授与規程」中に功労教授として名称を改めて規定化することになり、下記のとおり改正されました。

名誉教授称号授与規程

1. 規程の名称中「名誉教授」の次に「等」を加える。
2. 第3条の全条文を次のとおり改める。

「第3条 本大学は、本大学において教員として30年以上在職し、退職の際、診療教授、助教授及び診療助教授の職にあった者で、学内講師以上の在職期間が25年以上あり、研究業績及び本大学に対する功績が顕著であった者に、大阪医科大学功労教授の称号を与えることができる」

3. 第4条中「第1条」の次の「の」を削除し、その次に「及び第4条に定める称号授与に係る」を加える。
4. この改正は平成8年7月9日から施行する。

客員教授規程

1. 第6条の見出し及び条文を削る。
2. この改正は平成8年7月9日から施行する。



人 事

〔法 人〕

顧問 辞 嘱	武内 敦郎	3.31
〃	北村 八郎	〃
参与 辞 嘱	松村 實	〃
顧問 委 嘱	中山 太郎	5.14
理事 就 任	堺 俊明	6. 1
常任監事就任	國澤 隆雄	7. 4

〔名誉教授称号授与〕

吉田 康久 (前衛生学・公衆衛生学教授)	4. 1
美濃 眞 (前小児科学教授)	〃
小野村敏信 (前整形外科学教授)	〃
高橋 宏明 (前耳鼻咽喉科学教授)	〃

〔採 用〕

助 手	村田 卓士 (小 児 科 学)	6. 1
嘱 託	北野 健次 (総務部教務課、 進学課程)	〃
助 手	藤井 敬三 (一般・消化器外科)	7. 1
〃	小倉 康晴 (放射線医学)	〃
〃	田淵耕次郎 (〃)	〃
〃	山本 和宏 (〃)	〃
〃	下 勝人 (形成外科学)	〃
〃	松山 南律 (I C U)	〃

助 手	住岡 真也 (脳神経外科学)	7.16
〃	山下 能毅 (産婦人科学)	〃
事 務 員	笹山 貴未 (総務部教務課)	〃

〔退 職〕

助 教 授	赤尾 幸博 (解 剖 学 I)	6.30
助 手	千福 貞博 (一般・消化器外科学)	〃
〃	辰 吉光 (放射線医学)	〃
〃	難波隆一郎 (〃)	〃
〃	西垣 洋 (〃)	〃
〃	田中 聡 (形成外科学)	〃
〃	岡本 順子 (I C U)	〃
事 務 員	松本えい子 (医事第一課)	〃
看 護 婦	垣尾 千秋 (病院看護部)	〃
〃	清木 宏子 (〃)	〃
〃	佐藤みどり (〃)	〃
〃	田中 晴美 (〃)	〃
〃	田村知津子 (〃)	〃
〃	原田 恵美 (〃)	〃
〃	前田 和子 (〃)	〃
〃	三宅 紀代 (〃)	〃
事 務 員	加藤 秀宏 (医事第二課)	7. 5
助 手	川西 昌浩 (脳神経外科学)	7.15

〔昇 任〕

胸部外科学 講 師	蓑原靖一良 (助 手)	5.16
産婦人科学 講 師	植田 政嗣 (学 内 講 師)	5.16
〃	岡本 吉明 (〃)	〃
病態検査学 助 教 授	中川 俊正 (講 師)	6. 1
眼 科 診療助教授	中島 正之 (〃)	〃
I C U 診療助教授	岸田 尚夫 (〃)	〃
内 科 学 I 講 師	木村 文治 (助 手)	〃
整形外科学 助 教 授	木下 光雄 (講 師)	6.16
放射線医学 助 教 授	清水 雅史 (〃)	〃
眼 科 学 助 教 授	内海 隆 (〃)	7. 1
麻 酔 科 診療助教授	稲森 耕平 (〃)	〃
解 剖 学 I 講 師	丸川 治 (助 手)	〃
内 科 学 II 講 師	島本 史夫 (学 内 講 師)	〃
病態検査学 講 師	中西 豊文 (学 内 講 師)	〃

リハビリテーション医学 講 師	島田 恭光 (学 内 講 師)	7. 1	図 書 館 長	清金 公裕	6.12
眼 科 学 講 師	徳岡 覚 ()	7.16	附 属 看 護 専 門 学 校 長	堺 俊明	〃
〔委嘱・解嘱〕			教 授	植木 實 (産 婦 人 科 学)	〃
委 嘱			〃	清水 章 (病 態 検 査 学)	〃
客員教授			事 務 局 長	多田 敷義 (事 務 局)	〃
	福西 亮	5.16	事 務 局 次 長	池田 良正 ()	〃
リハビリテーションセンター長			病 院 事 務 部 長	常川 治男 (病 院 事 務 部)	〃
診 療 教 授	富永 通裕 (リハビリテーション)	4. 1	薬 剤 部 長	古家 鞆弘 (病 院 薬 剤 部)	〃
健康管理医兼衛生管理者			看 護 部 長	勢川 瑠美子 (病 院 看 護 部)	〃
助 手	黒川 義澄 (内 科 学 I)	6. 1	総 務 部 長 代 理	坂本 詔志 (総 務 部)	〃
保健管理室長			課 長	楠元 肇 (施 設 課)	〃
教 授	千原精志郎 (心 理 学)	6.26	機器共同利用センター運営委員会委員		
中央手術部長			講 師	伊藤 裕子 (解 剖 学 I)	7. 1
助 教 授	栗本 宗治 (麻 酔 科 学)	7.10	解 嘱		
学内講師			健康管理医兼衛生管理者		
助 手	中野 隆史 (微 生 物 学)	6. 1	助 手	坂根 貞樹 (内 科 学 I)	5.31
〃	山口 淳 (リハビリテーション医学)	7. 1	中央手術部長		
組換え DNA 実験安全委員会委員長			教 授	岡島 邦雄 (一 般 ・ 消 化 器 外 科 学)	7. 9
教 授	鈴木 廣一 (法 医 学)	5.22	〔海外渡航〕		
同上副委員長			東 治人 (泌 尿 器 科 学 助 手)		
教 授	大槻 勝紀 (解 剖 学 I)	5.22	アメリカ (ピッツバーグ他)	8. 5. 6~8. 5. 11	
病院情報システム企画室委員			植木 實 (産 婦 人 科 学 教 授)		
助 手	山本 隆一 (中 央 検 査 部)	5.22	熊谷 広治 () 助 手)		
〃	大坂 直文 ()	〃	オーストラリア (シドニー)	8. 5. 11~8. 5. 19	
技 師 長 代 理	井ノ崎光彦 (放 射 線 科)	〃	関 庚燁 (内 科 学 I 学 内 講 師)		
〃	岩本 暢泰 (中 央 検 査 部)	〃	アメリカ (ニューオーリンズ)	8. 5. 11~8. 5. 19	
課 長 補 佐	井関 隆 (医 事 第 一 課)	〃	中西 豊文 (病 態 検 査 学 学 内 講 師)		
技 術 員	北川 俊史 (病 院 薬 剤 部)	〃	アメリカ (ポートランド)	8. 5. 12~8. 5. 17	
病院情報システム構築委員会委員			丸川 治 (解 剖 学 I 助 手)		
教 授	清水 章 (病 態 検 査 学)	5.22	アメリカ (サンフランシスコ)	8. 5. 14~8. 5. 25	
講 師	河合 武司 (放 射 線 医 学)	〃	河野 公一 (衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学 教 授)		
学 内 講 師	徳岡 覚 (眼 科 学)	〃	カナダ (バンフ)	8. 5. 18~8. 5. 26	
助 手	福田 泰樹 (内 科 学 I)	〃	齊藤 治 (内 科 学 II 学 内 講 師)		
〃	久保田次郎 (内 科 学 III)	〃	アメリカ (サンフランシスコ)	8. 5. 18~8. 5. 26	
〃	金川泰一朗 (一 般 ・ 消 化 器 外 科 学)	〃	東 治人 (泌 尿 器 科 学 助 手)		
〃	山本 隆一 (中 央 検 査 部)	〃	アメリカ (ダラス)	8. 5. 26~8. 5. 31	
〃	大坂 直文 ()	〃	磯崎 博司 (一 般 ・ 消 化 器 外 科 学 助 教 授)		
病 院 事 務 部 部 長 代 理	平野 勝 (病 院 事 務 部)	〃	原 均 () 助 手)		
看 護 副 部 長	小林千恵子 (病 院 看 護 部)	5.22	イタリヤ (ポローニア)	8. 6. 1~8. 6. 8	
課 長	川浪 廣子 (栄 養 給 食 課)	〃	福田 市藏 (第 I 内 科 診 療 教 授)		
課 長 代 理	竹村喜一郎 (薬 務 管 理 課)	〃	オーストリア (ウイーン)	8. 6. 2~8. 6. 13	
技 師 長 代 理	岩本 暢泰 (中 央 検 査 部)	〃	中田 和伸 (放 射 線 医 学 助 手)		
主 任	松岡 道弘 (病 院 看 護 部)	〃	アメリカ (デンバー)	8. 6. 2~8. 6. 9	
病院西側拡張建築委員会委員			牧本 一男 (耳 鼻 咽 喉 科 助 教 授)		
学 長	藤本 守	6.12	ハンガリー他 (ブタペスト他)	8. 6. 8~8. 6. 19	
学 生 部 長	鏡山 博行	〃	大澤 伸昭 (内 科 学 I 教 授)		
附 属 病 院 長	佐々木進次郎	〃	アメリカ (サンフランシスコ)	8. 6. 11~8. 6. 16	
			東川 雅彦 (耳 鼻 咽 喉 科 学 学 内 講 師)		
			アメリカ (チャールストン)	8. 6. 13~8. 6. 20	

太田 富雄 (脳神経外科学教授)
 韓国 (釜山) 8. 6. 14~8. 6. 17
 江村 成就 (神経精神医学助手)
 ベルギー (ブリュッセル) 8. 6. 14~8. 6. 23
 川上 佳秀 (内科学Ⅲ助手)
 酒井 泰彦 ()
 フランス (ニース) 8. 6. 16~8. 6. 24
 畑中 道代 (病態検査学内講師)
 アメリカ (ボストン) 8. 6. 16~8. 6. 25
 平田 一郎 (第Ⅱ内科診療助教授)
 中国 (南昌) 8. 6. 18~8. 6. 23
 宮崎 瑞夫 (薬理学教授)
 塩田 直孝 () 講師)
 イギリス他 (グラスゴー他) 8. 6. 22~8. 7. 4
 堺 俊明 (神経精神医学教授)
 康 純 () 助手)
 オーストラリア (メルボルン他) 8. 6. 22~8. 7. 3

米田 博 (神経精神医学助教授)
 オーストラリア (メルボルン他) 8. 6. 23~8. 7. 3
 田嶋 定夫 (形成外科学教授)
 イギリス他 (プリストル他) 8. 6. 27~8. 7. 6
 中井 益代 (微生物学教授)
 後藤 俊幸 () 講師)
 香港 8. 6. 30~8. 7. 6
 佐野 浩一 (微生物学助 教授)
 森松 伸一 () 講 師)
 森田智津子 () 学内講師)
 中野 隆史 ()
 香港 8. 7. 3~8. 7. 6
 清水 章 (病態検査学教授)
 イギリス (ロンドン) 8. 7. 6~8. 7. 17
 岸川 匡彦 (病態検査学助手)
 イギリス (ロンドン) 8. 7. 7~8. 7. 15
 長澤 史朗 (脳神経外科学助教授)
 香港 8. 7. 15~8. 7. 17

新任教授・紹介

研究と教室の充実を推進

21 Cへの水先案内人に



泌尿器科学講座

勝 岡 洋 治 (53才)

昭和45年 3月慶應義塾大学医学部
 卒業

昭和45年 4月同大学助手

昭和51年 7月東海大学助手

昭和53年 6月~56年 8月米国留学、
 Tulane 大学 (泌尿器科学及び薬

理学教室)

昭和57年 4月慶應義塾大学兼任講師

昭和58年 4月東海大学講師

昭和61年 4月東海大学助教授

平成 2年 5月米国留学、Harvard 大学 (血液学教室、
 分子生物学研究室)

平成 8年 4月本学教授就任

この度、岩動孝一郎前教授の後任として、本学泌尿器科学講座を担当することになりました。もとより浅学非才の身にとりましてはまことに大任ではありますが、これまで脈々と築き上げられた教室の輝かしい伝統を引き継ぎ、さらに発展させるべく最善の努力を致す所存です。皆様のご指導とご助力をお願い申し上げます。

私は、20年前に新設された東海大学医学部の創立期に参画して、私立医大の機能と役割を身をもって体験しました。当時の世相は医師不信感が存在し、私立医大不要論まで浮上していました。そのような状況の中で、「科

学とヒューマンイズムの調和」をモットーに、良医の育成をめざした新生医学部の建設に加わったことは、私自身にとって貴重な経験でした。

さて、自己紹介に代えてこれまでに従事してきた仕事の概要を述べます。臨床面では、尿路性器腫瘍、副腎疾患、男性不妊症、泌尿器科手術などを専門領域として、それぞれの治療の実践と開発に携わってきました。具体的にはインターベンショナル・ラジオロジー (IVR) の導入、禁制型尿路変向術の実施、前立腺肥大症に対する新治療の導入、前立腺癌における根治術の実施、腎癌に対するサイトカイン療法の評価、抗癌剤による強化療法の導入、自己血輸血法の検討、体外衝撃波結石破碎術 (ESWL)、内視鏡手術及び腹腔鏡下手術の実施などです。教育面では、前任の大学が全国に先駆けてスタートした医学教育の一貫性の確立と基礎と臨床の統合を目的とした新カリキュラムの企画準備の段階より参画し、その後の推進役を担ってきました。研究面では、組織培養系と異種移植系を基本的手法として、腎癌におけるエリスロポエチン産生機序の解明を長年のテーマとして取り組んできました。また、アンドロゲン受容体 (AR) の測定法の検討や局在に関する研究にも従事してきました。最近では前立腺癌における AR 遺伝子の解析、精上皮腫由来アルカリホスファターゼの精製とその性状の検討に加え、cDNA クローニングと一次構造の決定、男子不妊症における HLA 遺伝子領域の解析などの研究課題に着手しています。

ところで、本学泌尿器科学教室は混乱と混迷の一時期があったと聞いておりますが、そうした苦い思いを一掃して、間近に控えた二十一世紀に向けて新たな出発 (帆) をするために、自ら率先して水先案内人を担っていくつもりです。

平成8年度 永年（20年）勤続表彰

平成8年度の永年（20年）勤続表彰式が、6月3日（月）午前10時から、総合研究棟12階第2会議室において執り行われました。表彰式には、25名（欠席2名）の教職員の方々をはじめ、学長、病院長等関係者が出席され、藤本守学長から、一人一人に表彰状と記念品が手渡されました。

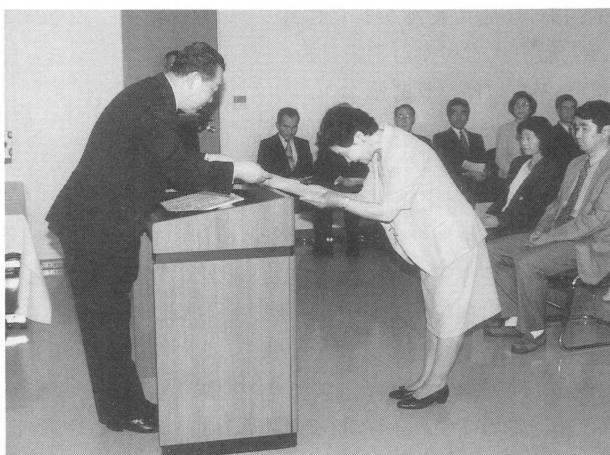
最後に学長からお祝いの言葉が述べられた後、記念撮影をして表彰式は終了しました。

本年度の表彰者は次のとおりです。

安藤八重子（看護部・看護補助員）
井上悦子（看護専門学校・専任教員）
内海隆（眼科学・講師）
岡山勝良（放射線科・技術主任）
岡山奈緒美（中央検査部・技術員）
河合武司（放射線医学・講師）
川口富美子（看護部・看護補助）
蔵本勝彦（教務課・課長補佐）
崔照子（図書館・事務員）
佐野和美（看護部・准看護婦）
竹村喜一郎（薬務管理課・課長代理）
豊田瑞恵（看護部・婦長代理）
中浜利枝（看護部・准看護婦）

中村桂子（眼科・技術主任）
中本富美子（看護部・准看護婦）
野村るり子（看護部・看護婦主任）
橋本豊子（看護専門学校・教務課長）
平野しみず（保健管理室・婦長代理）
弘田雄三（第3内科学・助教授）
松尾雄二（輸血室・助手）
三木茂子（看護部・准看護婦）
三科博美（看護部・准看護婦）
南和子（機器共同利用センター・技術補助員）
村上るみ子（医事第二課・事務員）
吉田宏（施設課・技能員）

（50音順）



（左）学長から表彰状授与

（右）受賞後全員で記念写真

永年勤続表彰を受けて

新たな状況変化克服を期す

薬務管理課長代理

竹村 喜一郎

社会人として二十歳を迎え、この度永年勤続表彰を頂くことになり、これも偏に多くの方々の暖かいご指導とご協力によるものと感謝致しております。

勤務してはや20年、医療を取りまく環境の変化と同様に、病院薬剤師としての業務は、調剤行為のみにとどまらず、TDM、服薬指導等多岐にわたり、幅広い職種へと変貌してきました。また、近々本学附属病院にも患者サービスの向上を第一の目的とした、オーダリングシステムが導入されることになり、病院全体においても大き

な転換期にさしかかっているように思います。当薬剤部でも、このシステム導入を目の前にし、外来待時間の短縮、合理的な調剤、丁寧な服薬指導等、さらに高水準な医療の提供が出来るよう目下検討中であります。

このような変動する状況の中で頂くこの度の表彰をこれからの人生を考える良いきっかけとし、医療に従事する一員として、今後益々高度化、複雑化するであろう日常業務に対して前向きに努力していきたいと思っております。

（次ページへ続く）

親しまれる部署づくりを

保健管理室

平野 しみず

この度（6月3日）第二会議室に於いて25名の永年勤続の皆様と共に表彰とユーハンス社の置時計をいただき嬉しさと感謝の気持ちを抱きながら学長先生のお祝の祝詞をかみしめて聴いていました。大阪医大で1つの大きな節目（成人式）を迎えることができたのも看護部の方々と大学、病院関係の皆様のご指導と温かい思いやりのお陰と感謝しております。公私共にお世話になり、よい仲間良い環境で仕事ができる幸せを実感しています。

19年間病院勤務をしていましたが昨年保健管理室の開設に伴って準備の為庶務課でお世話になりました。今年4月1日3名のスタッフで保健管理室がスタートし、5月、6月には関係の方々の協力を得て初めて学生の健康診断を実施することができました。

健診後学生さんの自分のデータをみる真剣な眼差しや“ホッ”とした表情をみていると本当に良かったと思っています。新しい分野の仕事は苦しいこともありますが、とても興味深く充実しています。今までの積み重ねを実践しながら更に技術、知性、感性を磨きつつ学生や職員の方々にとって懇ろな部署となるように頑張ってゆきたいと思います。



平成7年度 主なる事業報告

平成7年度の主なる事業報告は当初の計画通り実施されました。

（事業内容）

- A) 阪神・淡路大震災被災施設改修工事
 - 1. 被災施設改修工事（総合研究棟他）
 - 2. 被災備品整備費
- B) 研究診療設備拡充計画
 - 1. 生体機能・形態解析システム
 - 2. マルチメディア対応型教育実習支援システム
 - 3. 細胞表面抗原分析装置
 - 4. 窒素・炭素同位体比質量分析システム
 - 5. Versa Pulse Select ホルミウム/Nd ヤグレーザーシステム
 - 6. カセットレス多軌道断層撮影装置
 - 7. 泌尿器撮影装置（HYDRADJUST-IV）
 - 8. 末梢血幹細胞分離機
 - 9. 全身照射（TBI）用撮影装置
 - 10. X線CTスキャナ装置
 - 11. 医療用テレメーター
 - 12. 磁気テープ処理装置
 - 13. 診断用X線テレビ装置
- C) 教育実習用機器整備計画
- D) 施設改修整備計画
 - 1. 総合研究棟1階跡地改造工事
 - 1) 跡地改造工事
 - 2) 液体窒素式超低温保存システム
 - 2. 看護専門学校第一看護学科校舍二重窓工事
 - 3. 看護専門学校旧図書室改造工事
 - 4. 附属病院1号館1～2階スプリンクラー増設工事
 - 5. 附属病院無菌室改修工事
 - 6. 附属病院病棟詰所エアコン増設工事
 - 7. 附属病院屋上全面防水改修工事
 - 1) 61病棟屋上
 - 2) 2号館屋上
 - 8. 附属病院塗装改修工事
 - 1) 1～5号館室内
 - 2) 2～3号館外壁
 - 9. 看護婦寮（愛泉寮）6～7号館エアコン取替工事

平成7年度・収支決算

資金収支決算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科目	平成7年度 決算額	平成7年度 予算額	増・減(△)	科目	平成7年度 決算額	平成7年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金収入	2,516,855	2,476,662	40,193	人件費支出	11,447,215	11,630,543	△ 183,328
手数料収入	67,131	59,815	7,316	教育研究経費支出	11,025,052	11,181,034	△ 155,982
医療収入	19,557,721	19,482,335	75,386	管理経費支出	1,084,553	1,038,582	45,971
寄付金収入	329,162	220,000	109,162	借入金等利息支出	145,808	167,393	△ 21,585
補助金収入	2,329,297	2,062,595	266,702	借入金等返済支出	1,639,448	1,248,392	391,056
資産運用収入	363,160	432,559	△ 69,399	施設関係支出	250,600	318,458	△ 67,858
資産売却収入	9,270	9,668	△ 398	設備関係支出	1,060,061	982,834	77,227
事業収入	294,597	292,850	1,747	資産運用支出	172,938	205,043	△ 32,105
雑収入	323,136	280,747	42,389	その他の支出	2,676,218	2,760,239	△ 84,021
借入金等収入	1,089,600	1,089,600	0	予備費		200,000	△ 200,000
前受金収入	1,201,097	1,313,837	△ 112,740	資金支出調整勘定	△ 2,337,119	△ 2,359,095	21,976
その他収入	4,133,486	3,778,698	354,788	次年度繰越支払資金	4,872,023	4,335,238	536,785
資金収入調整勘定	△ 5,089,371	△ 4,886,527	△ 202,844				
前年度繰越支払資金	4,911,656	5,095,822	△ 184,166				
収入の部合計	32,036,797	31,708,661	328,136	支出の部合計	32,036,797	31,708,661	328,136

消費収支決算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科目	平成7年度 決算額	平成7年度 予算額	増・減(△)	科目	平成7年度 決算額	平成7年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金	2,516,855	2,476,662	40,193	人件費	11,831,269	12,029,330	△ 198,061
手数料	67,131	59,815	7,316	教育研究経費	12,387,402	12,512,980	△ 125,578
医療収入	19,557,721	19,482,335	75,386	管理経費	1,189,518	1,122,295	67,223
寄付金	355,504	243,600	111,904	借入金等利息	145,808	167,393	△ 21,585
補助金	2,329,297	2,062,595	266,702	資産処分差額	62,289	8,150	54,139
資産運用収入	363,160	432,559	△ 69,399	徴収不能額	7,447	3,500	3,947
資産売却差額	0	9,668	△ 9,668	予備費		200,000	△ 200,000
事業収入	294,597	292,850	1,747	消費支出の部合計	25,623,733	26,043,648	△ 419,915
雑収入	323,136	280,747	42,389				
帰属収入合計	25,807,401	25,340,831	466,570				
基本金組入額合計	△ 1,706,869	△ 1,413,544	△ 293,325				
消費収入の部合計	24,100,532	23,927,287	173,245	当年度消費支出超過額	1,523,200	2,116,361	

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

- 「寄付金」には、資金収支決算上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
- 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支決算では退職金支出額が計上されるのに対し、消費収支決算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
- 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支決算上の支払経費のほかに、消費収支決算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

(次ページに関連記事)

平成7年度決算について

平成7年度収支決算は、本年5月28日開催の理事会において確定され、5月30日評議員会に報告了承されました。

<決算の概要>

平成7年度予算では、支出面において阪神大震災関連支出及び研究装置、大型機器等整備のための支出増、収入面においては学納金の増収及び医療収入の増加を見込みました。

震災に伴う復旧工事も順調に進捗し、罹災者への対応として学費の減免、教職員に対する貸付制度等を行いました。資金収支決算額は予算額比3億2800万円の増加となりました。

消費収支では帰属収入から消費支出を差引いた基本金組入れ前の収支差額は1億8000万円の収入超過となっておりますが、この収支差額は平成3年度の12億400万円以降毎年減少しており、このことは施設設備取得に必要な財源が低減していることとなります。

消費収支決算について主な項目を予算との対比で述べます。

<主な収入の状況>

『学生生徒納付金』は、教育充実費の分割納入者の減少等により、40,193千円の増収となりました。

『医療収入』は予算に対して外来収入は84,926千円の増収、入院収入は9,266千円の減収となりましたが、総医療収入は3年振りに予算額を75,386千円上回りました。

『補助金』は経常費補助金の配点増による増加及び研究設備整備補助金の追加申請により予算比266,702千円の増加となりました。

その他、奨学金寄付金、退職金財団交付金等で増加がありました。反面預金利率低下に伴う資産運用収入の減少がありました。

<主な支出の状況>

『人件費』は183,328千円の減少となりましたが、前年度決算額との比較では306,900千円2.8%増となっております。尚帰属収入に対する人件費の割合は45.84%となり、前年度とほぼ同率となっております。

『教育研究費』は予算に対し155,982千円減少しました。内訳としましては奨学寄付金・受託研究の増加に伴う研究実験材料費、医療材料費等が増加しましたが、修繕費、光熱水費で減少しました。

医療収入に対する医療材料費の比率は42.4%で前年度と比べて0.5%の減少となっております。

『管理経費』は消耗品費、光熱水費、修繕費、委託費、賃借費で増加をみましたが、用品費、福利費、公祖公課で減少しました。

<今後の課題>

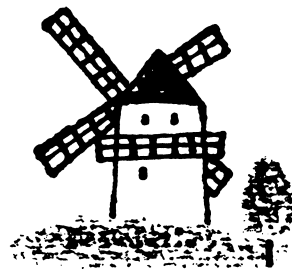
概要の項で述べましたが、低減傾向にある帰属収支差額の改善が主要であると考えられます。

本決算では帰属収入の前年度決算費2.8%に対し、消費支出の増加率は3.0%となっております。帰属収入と消費支出の収支差額は収入の0.7%となり、前年度比0.15%減少しました。

尚、本表には掲載していませんが、消費収支においては帰属収入差額が10億円台の収入超過を保っております。平成4年度の実績と平成7年度の実績を増加率で対比してみますと帰属収入の伸びは+6.5%でこれに対し、消費支出の伸びは+14.9%で倍以上となっております。

今後の財政基盤の安定を計るためにも収入の増加と経費節減に、より一層のご協力をお願いいたします。

(財務部長 池田 良正)



平成 8 年度 科学研究費補助金交付について

平成 7 年 12 月に文部省へ応募した 148 件の研究計画に対し、本年度は 44 件、総額 4,000 万円の決定がありました。
 なお、本年度より従来の研究種目の内、「一般研究」が「基盤研究」に名称変更されました。

平成 8 年度 科学研究費補助金交付一覧

(単位千円)

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
重 点	終脳特異的樹状突起性細胞接着分子テレンセファリンのシナプス可塑性における役割	生 化 学 領 域 助 教 授	吉 原 良 浩	2,000
基盤(B)	色素性乾皮症の神経症状と分子遺伝学的異常	小 児 科 学 教 授	玉 井 浩	1,100
〃	ピリドキサル酵素的触媒作用発現機構の解明をめざして	医 化 学 教 授	鏡 山 博 行	1,300
基盤(C)	APOC-II 遺伝子と晩期発症型アルツハイマー病との関連研究	神 經 精 神 医 学 助 手	野々村 安 啓	700
〃	双極性感情障害における連鎖研究	神 經 精 神 医 学 助 手	稲 山 靖 弘	700
〃	芳香族アミノ酸アミノ基転移酵素の基質認識機構	医 化 学 助 教 授	林 秀 行	700
〃	脳梁線維切断後の交連線維の再構築	第 2 解 剖 学 教 授	島 田 眞 久	400
〃	フルクトース 2、6 二磷酸合成酵素の脳型アイソザイムと脳の解糖系の調節機構	化 講 学 学 師	渡 邊 房 男	900
〃	アルコールによる肝障害発生機序の解明	化 教 学 学 授	古 谷 榮 助	800
〃	高齢者の地域ケアに関する疫学的研究 —老人保健施設の役割とその利用者の追跡調査—	衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学 学 内 講 師	渡 辺 美 鈴	800
〃	凝固第 13 因子遺伝子領域における組換えホットスポットの解析	法 医 学 教 授	鈴 木 廣 一	700
〃	腸粘液のバリアー機構破綻(透過性亢進、蛋白漏出等)に関する腸上皮細胞を用いた研究	第 2 内 科 学 内 講 師	齊 藤 治	800
〃	心筋症、心筋炎の心筋 in situ におけるウイルス核酸発現様式の分子病理学的研究	第 3 内 科 学 講 師	出 口 寛 文	300
〃	心筋症における左室拡張障害の成因: 透過電顕および走査電顕による免疫分子化学	第 3 内 科 学 助 手	林 哲 也	1,000
〃	老化促進マウスの心臓刺激伝導系におけるアポトーシスに関する研究	第 3 内 科 学 助 手	寺 崎 文 生	300
〃	新しい起立性調節障害診断基準の作製	小 児 科 学 講 師	田 中 英 高	300
〃	急性前骨性白血病における ATRA による分化誘導された白血球機能と薬物動態の研究	小 児 科 学 助 手	三 宅 宗 典	300
〃	脚延長における筋機能の実験的研究	整 形 外 科 学 教 授	阿 部 宗 昭	500
〃	骨に対する物理的刺激(情報)は細胞レベルで如何に修飾・変換され受容・伝達されるか	リハビリテーション医学 助 手	山 口 淳	400
〃	国内外における変異 LH の頻度とその分布の検討	産 婦 人 科 学 講 師	奥 田 喜 代 司	700
〃	乳癌高転移モデル動物の作製と転移抑制物質の探索	実 験 動 物 セ ン タ ー 講 師	森 本 純 司	600
〃	Artificial Matrix Flap に関する実験的研究	形 成 外 科 学 助 教 授	田 中 嘉 雄	600
〃	ヒト正常及び粥状硬化動脈内の抗凝固性タンパクの局在と機能発現の検討	第 2 病 理 学 助 教 授	岡 田 仁 克	1,800
〃	筋萎縮性側索硬化症における神経組織カルシウム・チャンネルのリガンド結合動態	第 1 内 科 学 助 手	木 村 文 治	900

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
基盤 (C)	類上皮肉腫におけるインターロイキン6による発癌機構と多剤薬剤耐性克服の検討	皮膚科学教授	草壁秀成	800
〃	EPIを用いた腹部領域の拡散強調画像に関する研究	放射線医学師	清水雅史	1,000
〃	同種皮膚移植における細胞間シグナル伝達分子の制御による免疫寛容誘導	形成外科学教授	田嶋定夫	1,600
〃	子宮内膜におけるアポトーシス	第1解剖学教授	大槻勝紀	1,600
〃	口腔・咽頭内圧が発生時体壁振動に及ぼす影響の検討	耳鼻咽喉科学師	坂倉 淳	1,400
〃	C型肝炎ウイルス感染に伴う低温補体活性化とクリオグロブリン形成の機構の解明	病態検査学教授	清水 章	1,300
〃	GPI-アンカー型補体制御因子 (CD59) のシグナル伝達機構	病態検査学内講師	畑中道代	1,200
萌芽	金被覆マイクロキャピラリー LC 装着質量分析による癌特異ペプチドの超高感度構造決定	病態検査学師	中西豊文	1,000
奨励 A	ニホンザルにおける樹上ポジショナル・ビヘイビアの年齢変化分析	第1解剖学助手	茶谷 薫	1,000
〃	培養近位尿管細胞の内向き整流性 K ⁺ チャネルの磷酸化・脱磷酸化による活性調節	第2生理学助手	森 禎章	600
〃	心血管組織再構築機構に果たすキマーゼの役割の解析とキマーゼ阻害薬の有用性の検討	薬理 学 師	塩田直孝	1,000
〃	芳香族 L-アミノ酸デカルボキシラーゼの構造と機能相関の解明	生化学 領域 助手	石井誠志	1,100
〃	精神病様症状発現薬投与によるラット能内 NMDA 型受容体 m-RNA の変化について	神経精神医学師	高畑龍一	900
〃	抗接着分子抗体を用いた細胞間シグナル伝達阻害による皮弁の再灌流障害の防止	形成外科学師	上田晃一	1,000
〃	非優襲的かつ臨床応用可能な頭蓋内コンプライアンス測定方法の確立	脳神経外科学助手	梶本宜永	900
〃	グルタミン酸受容体ノックアウトマウスを用いた痛みの研究	麻酔科 学 手 助	南 敏明	1,100
〃	種々の発声法が声帯に及ぼす影響について 一空気力学的検討	耳鼻咽喉科学師	東川雅彦	1,000
〃	血液中蛋白質構造異常症の質量分析による短時間高感度高精度検査法の確立	病態検査学 手 助	岸川匡彦	900
〃	進化分子工学を用いたアミノ基転移酵素の基質特異性の変換	医 化 学 師 講	矢野貴人	1,000
〃	培養脳スライス標本を用いての神経細胞における蛋白質ソーティング機構の研究	生化学 領域 教授 助	吉原良浩	1,000
合計	44 件			40,000

〔備考〕平成8年度同補助金文部省内定件数は45件（総額41,200万円）であったが、該当者の内1名（基盤研究（C））が退職しているため上記の件数で交付申請を行った。

教 室 紹 介

神経精神医学教室

常に医師の心を帯して

高次元、広範囲な研究、治療

神経精神医学教室は、昭和28年神経精神病学教室として設置され、満田久敏先生が初代の教授として就任した。その後昭和51年に堺俊明先生が第2代教授に就任し、今年ちょうど堺教授就任20周年にあたる。現在の教室構成員は、堺俊明教授以下、助教授1名、講師4名（うち学内講師2名）、助手6名、研修医14名、専攻医49名、研究生2名で、心理学千原精志郎教授が当教室を兼担しており、非常勤講師は16名である。

当教室のモットーは、brainless psychiatry や mindless psychiatry に陥らない幅広い精神科医であり、これを目標に教育・臨床・研究に励んでいる。

教育面では、卒前教育において知識ばかりではなく医師としての態度を養うために、関連病院を含めたベッドサイドティーチングなど、臨床実習を重視している。また卒後教育でも、幅広い精神科医を目指して、近畿圏の精神科教室と合同の研修会を開催している。

当科の病床数は56床（閉鎖36床、開放20床）で、精神疾患の治療のために、いわゆるアメニティを重視した構造になっている。最近の精神科医療の開放化や短期入院、外来医療重視の流れの中で、精神疾患の急性期治療のための閉鎖病床と、快復期のための開放病床を一つの病棟単位として有している意義は大きく、身体合併症を持つ精神疾患患者を含め幅広く対応している。また、開放の個室が3床あり、最近増えている神経症や睡眠障害患者の治療に利用している。外来診療も幅広い疾患に対応し、なかでも痴呆性疾患、てんかん、高次脳機能障害、睡眠障害、児童思春期精神障害については、特殊外来で専門性の高い医療を行っている。ことに睡眠障害は、終夜ポリグラフ検査ができる全国でも数少ない施設の一つである。

研究分野では、教室開設以来一貫して“精神疾患の遺伝”を研究テーマとしている。すなわち、臨床遺伝学的研究から精神疾患の包括的かつ疾病学的分類体系の確立を目指し、さらに最近では、分子遺伝学的な研究手法をとり入れた精神疾患の原因遺伝子の同定を試みている。このような研究を基に、昭和58年には国際シンポジウム“Genetic aspects of human behavior”を開催した。その他、時間生物学的研究、神経放射線学的研究、神経化学的研究、神経心理学的研究、児童思春期疾患研究、ストレス研究など、多くの疾患についてさまざまな研究手法で行っている。

学会活動としては、堺教授をはじめとして教室員が、日本精神神経学会や日本生物学的精神医学会など多くの学会の理事あるいは評議員をつとめている。また最近では、第88回日本精神神経学会（平成4年）、第6回日本アルコール精神医学会（平成6年）、第18回日本生物学的精神医学会（平成8年）などを主催し、さらに日本精神・行動遺伝学研究会は、発会以来堺教授が代表世話人で当教室が事務局となっている。さらに堺教授は、American Journal of Human Genetics (Neuropsychiatric Genetics) などの学術誌の Editor であり、日本国際賞 (Japan Prize) の選考委員にも選ばれている。

一方、毎年医局旅行、新入医局員歓迎会、OB との親睦会、近隣の精神科教室との野球などで教室員の親睦を深め、鋭気を養っている。

(文責 米田)



医学の散歩道

三つのノーベル賞に値する人

F・Sanger —

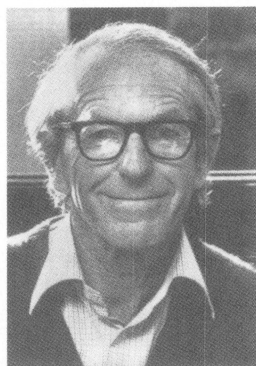
鏡山博行

「生命現象の解明に最も貢献した人を一人挙げて下さい」と身近かな人にたずねてみました。最も多かったのがワトソンとクリックで、その他パスツール、シュレディンガー、クロード・ベルナルなどの名が挙がりました。私はサンガー博士と答えたく思います。たん白質、リボ核酸 (RNA)、デオキシリボ核酸 (DNA) という生命現象の根幹にある物質の構造を解明する道を拓き、これなくしては近年の生命科学の発展はなかったと思うからです。たん白質を構成している20種類のアミノ酸の並び方、核酸を構成している4種類のヌクレオチドの並び方こそ生命現象の根幹であると考えられるからです。

1918年生まれのサンガー博士はケンブリッジ大学で学びますが、1945年から1955年の10年をかけて、インスリンを構成している51個のアミノ酸の並び方を解明したのです。たん白質がアミノ酸からできていることはわかっていましたが、一定の構造を持つものであるとの概念はできていない頃です。たん白質は長短様々なペプチド (アミノ酸がつながったもの) がくっついたり離れたりして作りあげている変幻自在なものと思われていた頃です。

インスリンはバンチングとベストによって抽出されて以来20有余年経ち、当時すでに純粋な状態に精製され、たん白質であることが確立していました。「もしインスリンが長鎖のペプチドであるのなら、一方の端にアミノ基があり (N 末端)、他の一端には遊離のカルボキシル基があるはずである。N 末端を分析せよ」との上司の依頼が出発であったそうです。当時この末端を定量的に同定する方法が無かったのです。博士は幾多の試薬の中からフルオロジニトロベンゼン (FDNB) を選び、これが遊離のアミノ基と反応して黄色の誘導体となり、濃塩酸によるペプチドの加水分解の際にも安定であることを見出しました。私の学位論文もこの方法を用いた仕事なのです。十年間にわたる構造決定の方法を紹介するには紙面が足りませんが、基本的には分子の部分的分解で得られる断片の構造を決定し、それらを組み立てて全体構造を作り上げるという有機化学の常法です。たん白質を塩酸で部分分解し、生成する長短様々なペプチド断片の N 末端に FDNB を結合、当時開発されたばかりの薄紙クロマトグラフィー (PC) で一つ一つ分離します。次にそれぞれを完全加水分解して、N末端アミノ酸とそれに続く構成アミノ酸をPC上ニヒドリン反応で検出同定するという方法を開発したのです。生成して来る数十種類のペプチド断片について、N末端アミノ酸とアミノ

酸組成をにらみながら、ジグソーパズルを解くように矛盾なくそれをつなぎ合せて行くという、時間と根気の要る手仕事を行ったわけです。1940年代前半には個々のアミノ酸の定量は手に負えるものではありませんでした。分別沈殿が主な手段で、たとえば牛乳たん白質中のグルタミン酸を信頼できる正確さで分析するには牛乳数リットルを用い、1年を要したそうです。たん白質を有機化合物として研究し、仮説を実証するなど不可能なことだったのです。PC の開発 (1944年) によって数マイクロリットルの牛乳で十分となり、3日もあれば結果がわかる



ということで、それまで立ち入れなかった分野がひらかれていたわけです。このようにして、1955年たん白質の構造がはじめて解明されたわけで、たん白質が一定の構造をしていることが証明されたのです。現在のたん白質の構造決定はもっと便利

な方法が開発されたため、サンガー博士が用いた方法は行われませんが、化学物質としてのたん白質が確立された意義は大きく、アミノ酸の並び方がたん白質の機能のもとであるという概念へ導くことになりました。1958年にノーベル賞 (化学) を受けますが、当然のことでありましょう。ここまでやれば、次には別のもっと大きなたん白質に挑戦する気持ちになるものですが、博士はRNAの塩基配列の決定法に向かいました。サンガー博士の姿勢は、「自分は人集めも金集めも苦手である。金を使わず社会にインパクトを与えるには、たん白質、核酸、多糖類といった生体高分子の構成ユニットの配列を決める方法を作ること」であったといわれています。

当時すでに低分子のRNAが均一な状態で得られており、また RNA を部分分解する酵素も見つかっていました。原理はインスリンの時と同じで、RNA を放射性同位元素である³²Pで標識し、RNAの酵素による分解断片やそれに含まれる個々のヌクレオチドをPCや電気泳動で分離してしらべるわけです。検出を放射性同位元素で行ったことが特徴といえます。1967年大腸菌 5 S リボソームRNA120塩基の配列を決定しましたが、1965年にホーリー博士が酵母の転移RNA 77塩基の配列を発表したために、二番手になってしまいました。ホーリー博士は転移RNAの構造と機能の研究ということで1968年ノーベル賞 (医学生理学) に輝きますが、方法的には従来から核酸分析に用いられていたもので、豊富な研究費と研究陣、贅沢な実験設備などを駆使して力づくでやられたもので、誰でもができるものではなかったといわれています。サンガー博士の方法は断片の分離が短時間で済み、検出感度もよく試料も2桁少ない量で可能であるなど優れており、その後広く用いられています。後世へのイン

パクトの大きさからすればサンガー博士も受賞の資格があったのではないのでしょうか。

次に DNA へ向かいます。RNA にくらべて桁違いに大きく、たった四文字の組み合わせという単純すぎる構造であるため、かえって構造解析が難しく、私など到底不可能と考えていました。しかし、制限酵素が発見されることによって分析可能な大きさに断片化することが可能になった時でした。一本鎖 DNA に目的とする DNA 断片を挿入し、それを鋳型にして相補的な DNA を酵素的につくらせます。その途中で反応を停めて生じる様々な大きさの DNA を寒天ゲル上で分離してしらべるという

原理です。1977年に ϕ X104 という細菌ウイルス DNA 5375塩基の配列を決定しました。一時、より便利なマキサムとギルバードによる化学的な方法にとってかわられますが、その後改良し、ジデオキシ法として DNA の塩基配列決定法の主流となっています。現在の分子生物学発展への貢献はいうまでもなく、1980年ギルバートとともに再度ノーベル賞（化学）を得たのは当然のことでしょう。先に触れたように、学問的インパクトからすれば、RNA の構造決定もノーベル賞に値すると考えられ、ノーベル賞を三度もらう資格のあった研究者と評価したいと思うのです。

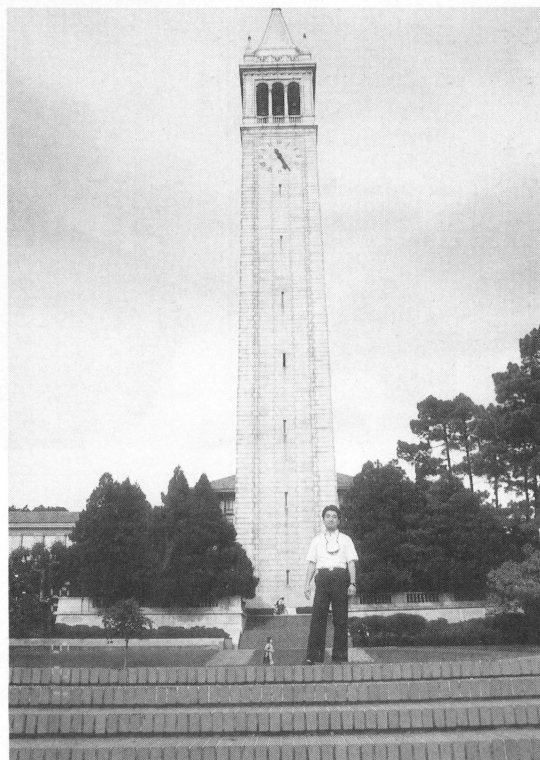
海外出張記

大らかさと自由と威厳と “UCB” に本学を憶う

第1解剖学教室

丸川 治

大槻教授はじめ教室の諸先生方のご理解を得まして、この5月中旬に米国消化器病週間（DDW）出席のため、アメリカ・サンフランシスコに出張させて頂きました。ゴールデンウィークを過ぎたこの時期、西海岸は時間も良く、観光客も少なく、なによりも旅行費用が安価なことが魅力であります。そこでものはついでと、まずロスアンジェルスにたち寄り、ドジャースタジアムでメジャーリーグを観戦、あいにく我らが野茂投手の登板には当たりませんでした。本場のベースボールを肌で感じる事ができました。さて、米国消化器病週間（WWD）とは、現在日本でも米国に習い同様の学会が開催されるようになりましたが、毎年全米はもとより欧州・アジア各国の消化器病（消化管・肝臓）、消化器内視鏡、消化器外科の会員が一同に会し、最新の研究結果が報告される巨大な医学会であります。日本からも多くの参加者があり、本学からは第2内科の若手精鋭医師達が参加され、興味あるデータを発表されており、遠く異国の地で心強く感じた次第です。サンフランシスコ滞在中は幸い天候にも恵まれ、学会はもとより、近郊の観光も十分堪能できました。“サンフランシスコのチャイナタウンの飲茶”で腹ごしらえをしてから、ゴールデンゲイトブリッジ、ケーブルカーなど一通り見て回った後に、地下鉄（bart）に乗って、憧れの University of California, Berkeley 校（UCB）に足をのびしてみました。広大なキャンパスに、伝統が漂う校舎・時計台・図書館・研究所が整然と並び、これぞ本来の学問の殿堂・大学という印象でありました。多くのノーベル賞受賞科学者を輩出し、現在も世界のトップレベルの研究が行われているようで



University of California, Berkeley 校のシンボル、
Sather Tower の前にて

す。行きかう学生達や教師にも、おおらかで自由な雰囲気とともに何か威厳があふれているようにさえ感じられました。と同時に、本学の現状を思い起こさざるを得ませんでした。大学としての本来の使命、教育・研究は十分行われているか……と。指導者たるべき者が、若い才能の芽を摘んでしまっていないか……と。また、市中病院との間に果たして identity は存在するのか……と。透き通るような青空のもと、ふと脳裏に一陣の暗雲が立ちこめてしまいました。然しながらとりあえず小生は、この海外出張で身も心も十分にリフレッシュして帰国することができました。今は時差ぼけと怠け癖と戦いながら、もう一度研究計画の練り直し中であります。

第72回 医学会総会・春季学術講演会

第72回医学会総会・春季学術講演会が下記のとおり実施されました。

日時 平成8年6月5日(水)午後2時
場所 臨床第一講堂

春季学術講演会

『Fas を介したアポトーシスと病気』

大阪大学医学部遺伝学教授

大阪バイオサイエンス研究所研究部長

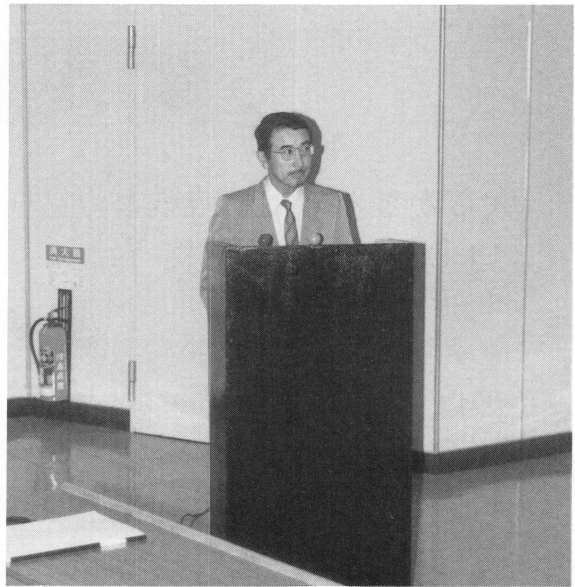
長 田 重 一



『四肢の骨延長の実際』

整形外科学教授

阿 部 宗 昭



主要会議とその主な日程

5月2日から7月16日までの主要な会議とその主な議題は次の通りです。

〔理事会〕

(5月14日)

－審議事項－

1. 学校法人大阪医科大学顧問委嘱の件
2. 学校法人大阪医科大学給与規則中一部改正の件

(5月28日)

－審議事項－

1. 平成7年度決算承認の件

－報告事項－

1. 庶務報告
2. 学事報告

(5月30日)

－審議事項－

1. 入学者選抜方法の見直しの件

(6月11日)

－審議事項－

1. 入学者選抜方法の見直しの件－

(7月9日)

－審議事項－

1. 大阪医科大学名誉教授称号授与規程中一部改正の件
2. 大阪医科大学客員教授規程中一部改正の件
3. 学納金等見直しの件

〔評議員会〕

(5月30日)

－審議事項－

1. 理事一部改正の件

－報告事項－

1. 平成7年度決算報告の件
2. 庶務報告
3. 学事報告

〔教授会〕

(5月8日)

1. 人事に関する件(客員教授の委嘱他)

(5月22日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 第6学年後期試験成績判定に関する件

(6月12日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 平成8年度奨学生(日本育英会、本学、仁泉会)の推薦に関する件
3. 平成9年度入学試験に関する件
4. 本学放射性同位元素研究室放射線障害予防規程(案)及び附属病院放射線障害予防規程(案)に関する件
5. 本学名誉教授称号授与規程及び本学客員教授規程中の一部改正に関する件

(6月26日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 本学名誉教授称号授与規程及び本学客員教授規程中の一部改正に関する件

(7月10日)

1. 人事に関する件(講師の任用他)
2. 平成9年度入学試験に関する件

〔大学院医学研究科委員会〕

(5月8日)

1. 平成8年度ティーチングアシスタントの任用に関する件

(5月22日)

1. 平成8年度ティーチングアシスタントの任用について

(6月12日)

1. 学位論文受理に関する件
2. 平成8年度私立大学等経常費補助金特別補助(高度化の推進)に係る計画書の提出について

(6月26日)

1. 研究生の願出に関する件

(7月10日)

1. 学位論文のための語学試験の結果に関する件
2. 研究生の願出に関する件

8月11日(日)「故細川修治先生を偲ぶ会」於高槻現代劇場中ホール

13日(火) 理事会

26日(月) 第6学年第2学期臨床実習開始

28日(水) 第4学年第2学期授業開始

9月2日(月) 看護専門学校授業開始

4日(水) 第3・5学年第2学期授業開始
教授会、大学院医学研究科委員会

10日(火) 理事会

11日(水) 第1・2学年第2学期授業開始

13日(金) 学位論文受付締切

18日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

10月2日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

8日(火) 理事会

10日(木) 大学祭(10月13日まで)

16日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

18日(金) 看護専門学校戴帽式

19日(土) 解剖慰霊祭 於高槻市民会館

21日(月) 第6学年後期試験(平成9年1月上旬まで)

生前献体者へ感謝状伝達

ご遺骨返納式典

生前献体者に対する文部大臣からの感謝状の伝達式が、7月3日(水)午後1時から第2会議室において挙行されました。

また、これに引き続きご遺骨返納式典が午後2時から高槻現代劇場文化ホールにおいて、ご遺族の方々をお迎えし、本学から学長、事務局長、解剖学教室関係者及び学部学生の参列のもと執り行われました。

主な行事日程表

7月17日から10月30日までの学内における主要な予定は次のとおりです。

7月19日(金) 看護専門学校授業終了

20日(土) 平成8年度第48回西日本医科学生総合体育大会(8月11日まで)

22日(月) 看護専門学校夏期休業(8月31日まで)

24日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

29日(月) 学位記授与式

附 属 病 院

院内消防防火設備説明会

今年度の消防訓練計画にもとづき、防災訓練の一貫として、附属病院に設置されている消防防災設備全般にわたる説明会が下記のとおり実施されました。

記

- ・スライド映写と設備資料に依る説明（40分）
- ・病棟での現地設備機器説明（20分）

日 時	対象職場	開催場所	現地説明
6月12日(水) 13:30~ 14:30	1号館 5号館	管理棟会議室 (管理棟3階)	13病棟 54病棟
6月18日(火) 13:30~ 14:30	手術室・ICU 外来棟・サブライ	ICU カンファレンス ルーム	ICU 外来ホール
6月25日(火) 10:00~ 11:00	2号館 3号館	管理棟会議室 (管理棟3階)	24病棟 34病棟
6月26日(水) 13:30~ 14:30	6号館 保育室	管理棟会議室 (管理棟3階)	66病棟

平成8年度附属病院臨床研修医

(79名……学内53名、学外26名)

平成8年5月1日現在の各科の臨床研修医数は以下のとおりです。尚、昨年度は78名。

第 1 内 科	6	眼 科	9
第 2 内 科	15	耳 鼻 咽 喉 科	1
第 3 内 科	3	皮 膚 科	1
精 神 神 経 科	5	泌 尿 器 科	1
一 般 ・ 消 化 器 外 科	4	放 射 線 科	2
胸 部 外 科	6	麻 酔 科	0
脳 神 経 外 科	5	歯 科 口 腔 外 科	4
整 形 外 科	6	中 央 検 査 部	0
小 児 科	2	形 成 外 科	5
産 婦 人 科	4		

看護の日「ふれあい看護体験'96」

看護婦主任 西村尚子

大学病院看護部で「ふれあい看護体験」を受け入れ、今年で6年目を迎えています。5月22日(水)に2カ所の病棟で、各2名の方々が看護婦の仕事を実際に体験されました。当病棟では医療品メーカーに勤務されている男性と、ホテルでの接客業務に従事されている女性を受

け入れました。参加動機は、「医療現場で製品がどのように活用されているのかを見たい」「人間相手の仕事である看護婦の患者との接し方を実際に見てみたい」という気持ちで参加されています。

当日は、清拭、洗髪、食事介助、患者の移送等を担当の看護婦と一緒に実施されましたが、非常に熱心な態度で取り組み、看護婦の一挙一動に関心を寄せておられたように感じました。患者さんからも快く受け入れて貰えたこともあり、笑顔で対応されコミュニケーションもスムーズに図れていました。

丁寧な態度で患者さんと接し、自然に溶け込むことができたのは、日常の中で接遇に留意されていることがうかがえました。

看護婦と患者さんとの関わりからの学びとして、体験終了後の意見交換の場では「相手の身になって考えることで相手の欲求を満たすことができる」「言葉と言葉のキャッチボールによってコミュニケーションの図り方を学ぶことができたので、この経験を職場で活かしお客様のサービスに努めます」との感想を述べられました。また、「今後多くの人々にも体験してもらいます」との言葉があり緊張感の中にも充実感が感じられました。短時間の中での看護体験でしたが、看護職に対する関心を持っていただけたと実感いたしました。

今回の対象者は、お互いに人間を相手にする仕事に従事しておられ、お互いの立場になって物事を考えることの重要性を痛感されましたが、私達自身看護サービスを一層良くする為にも必要なことだと再認識しました。

日々、社会的にもエイズや安楽死問題等、医療に対する関心が高まっている中これからも多くの人々が実際に患者さんとのふれあいを通して、医療と看護のあり方について正しく理解していただくことができればと願っております。このような機会がその為に役立てられることを願い今後共、日々の看護業務に励みたいと思っております。

日本臨床細胞学会技術賞受賞

5月31日(金)岩手県盛岡市勤労福祉会館において中央検査部森川政夫技師長補佐が、臨床細胞学における技術の進歩・発展に寄与したとして、日本臨床細胞学会から学会技師賞の表彰を受けられました。

お詫びと訂正

前回発行の28号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正いたします。

P12 (定数)

診療助教授 → 診療教授

P14 (採用)

宇上シオリ → 宇土シオリ

〃 技術補助員 岡田弘司 →
技術員 岡田弘司

〃 嘱託 宮内剛義 (教務部庶務課)
→ 嘱託 宮内高義 (総務部庶務課)

P16 (退職)

看護婦 森剛万理 → 看護婦 森高万理

P23 鳥越由紀子 → 鳥越由紀子

大阪医科大学俳句会(四／五／六月)

大津絵の鬼は女房か蜷飯	塚本 務人
コンクリート打ちこはしたる薄暑かな	今井 雄介
たけのこや分譲直ぐに買い手つき	中川 一成
松蟬の一匹鳴くは早生まれ	梶野 興三
カーネーション芋蛸なんきん芝居好き	梶野香代子
鐘韻や石山螢充電中	奥田 筆子
豎琴もチエロも奏でる灌佛會	吉田 孝江
草餅や日向に子供の匂ひして	宮崎 真紀
春の夜むかしの反故をみつけたり	辻倉 忠男
不安にも色があるなら七変化	飯塚 久子
追試験一つ残りし菜種梅雨	深水 玲子
時の日や鬼の念佛文字盤に	山崎 隆司



カルガモの母子が、今年も役員室の小庭園に姿を見せた。いつに変わらぬ愛くるしさが、人の目を楽しませてくれたのだが…。「無事に育って」と思う周囲の願いは、またも空しかった。わずかに数日を出ないのちの悲しさ。それでも、きっと来年もまたここへ、やってくるに違いない。

大阪医科大学学報 第29号	
発行年月日	平成8年7月16日
発行	学校法人 大阪医科大学
発行責任者	事務局長 多田 數 義
編集・発行	総務部 庶務課